

拙堂會報

齋藤拙堂の

勝れたバランス感覚

拙堂が書いた文章を読んでいると、彼はバランス感覚の勝れた人だったというのを感じる。たとえば韓愈や、歐陽脩の功績を称える文章においても必ず彼らには協力者、先駆者、後継者があつたことを述べている。勝れた人物を称揚するときにも、その人の欠点について記述することも忘れない。

話は飛ぶが西洋史で習うフランス革命のときの標語「自由・平等・博愛」は、この三項目が決して並列に在るのではなく、相矛盾する自由と平等を調

和させるのに友愛が必要だという意味ではなからうか。拙堂の本領である朱子学でいう「中庸」はこの友愛の原理ではないかと私は思うのである。封建時代の身分制度をなくしても人間生れつきの能力の不平等はどうにもならない。拙堂が治者は被治者の苦労に感謝し彼らを労わらなくてはならないと説いている教訓は、身分制度を廃した今日でも、生まれつきの不平等を、友愛をもって緩和せよと解するならば依然有効だと思う。

最近、社会主義の悪平等に懲りて、アメリカを中心に新自由主義は弱者切り捨てに走っており、日本もそれに従わされているように思う。「護送船団方式」と悪口を言われた規制には「中庸」を実現するために設けられたものもあつたはずである。弱肉強食を繰り返してよいのであろうか。

なお、拙堂は侍読として藩主と極めて親密な関係にあつた。だがそのような地位にあつても、家老をはじめ藩首脳部との間では良好な人間関係が保たれていた。これは彼の驚異的な学識と誠実無私な態度に加え、その政策提言におけるバランス感覚のよさによるものではなからうか。

拙堂会会長 齋藤正和

発行所
齋藤拙堂顕彰会
事務局
津市大谷町 208-175
常務理事 中川禎二
Tel 059-226-2722

巻頭言	齋藤正和	1	二十九年度上期当会の活動
拙堂の詩に学ぶ	加藤龍宗	2	今こそ『拙堂に学ぶ』
経世家・拙堂	飯田俊司	3	拙堂に関する催事
藩校有造館			二十九年度下期行事予定
建学の流れ	中川禎二	4	拙堂今昔
		10	
		8	
		7	
		6	
		5	

拙堂の詩に学ぶ



筆者 近影

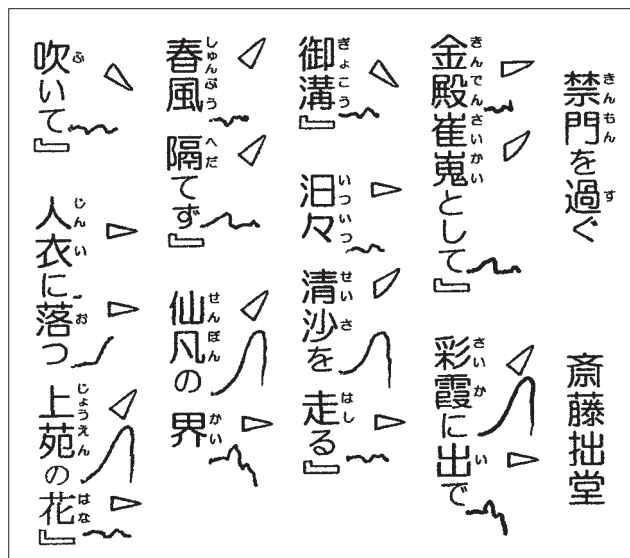
拙堂会理事長 加藤龍宗

戦後七十二年を閲し、はやその歳末を迎える。

物質的に豊かになり過ぎ、心の貧しさを覚え、殺伐とした時代に怒りさえ感じはしないか。

人間性を重視する心豊かな社会を作る教育の必要性を強く訴えたい。拙堂は父の厳格な教育と不断の読書、昌平黌での勉学、剣の修業により武士としての素養を高め藤堂藩士として士道を貫いた。同時に文人(儒者)として秀

でた道を歩んだ。この要因は江戸での青少年期の読書によるところが大きい。後に『漢詩』及び『漢詩文』を多く著したのは、当時の優れた「文人達との交流」そして「旅」によるところが大きい。今回、京の都での詩を紹介し、その中から拙堂の心を探ってみることにしよう。



「金殿崔嵬として」と詠い、美しい御所の景観にふれ、華々しい都を戀い、少なからず皇室への畏敬の念を抱いていたことがうかがえる。自然を愛し、季節は人間にとつて平等であることを想い、「吹いて人衣に落つ」と結び、花を愛し、人に上下の差別のないことを願っていたことがよくわかる。

拙堂は生涯、十三回の都への旅を重ねている。日本の文化の中心である京洛に学び、人々との交わりの中から秀でた文人拙堂が誕生した。昏冥する現代に生きる私達は、今、拙堂に学び、「読書」「旅」により心豊かで意義のある人生を楽しもうではないか。

拙堂に学ぶ・特集

本紙二頁から四頁に、拙堂とその周辺から学ぶ幾つかのポイントを発表していただきました。ご愛読下さい

経世家としての拙堂

拙堂会副会長 飯田俊司



筆者 近影

齋藤拙堂は江戸末期の日本を代表する学者であるが、儒学者、文書家、教育者、経世家など多面的な才能を発揮した津市が誇る偉大な先覚者であった。経世家とは、経世済民(経済の語源)

を説いた知識人のことで、世の中を治め、人民の苦しみを救う人という。

拙堂の生きた時代は、幕藩体制が揺らぎ、ロシアが北辺に出没、ペリーの来航、清国のアヘン戦争敗北などまさに内憂外患の激動期であった。このような時代を背景に、拙堂の研究分野は地理、歴史、法律、税制、国防、農政、

洋学など多岐に渉り、多くの先見性に富む具体策を提言した。

このうち、特に経世済民に係るものを取り上げてみた。

江戸時代の経済は農業が中心であった。この時期、地球上の気候は寒冷期にあたり、周期的に飢饉が発生した。拙堂は天保の初め、近く大飢饉が来ることを予測し、「救荒事宜」(天保二年・一八三一年)を著わして救荒の手段、方法すなわち飢饉の兆しを早く知ること、金持ちに施業米を出させること、お救い普請のこと、粥施行のこと、食べられる草木の知識など具体的な提言をした。

事実、天保三年に凶作そして天保七年に至って天保の大飢饉が発生し、諸国には暴動が起こって夥しい数の餓死者を出したが、津藩領内では暴動は起こらず餓死者も出ていない。さらに天保八年(一八三七年)には「三倉私議」を著わし、飢饉に備えて三種の備蓄倉庫を準備することを提言している。

また国防対策のため蘭方医が訳した地理書、兵書の知識の吸収に努めたほか有能な藩士に医学や科学を学ばせている。種痘術の渡来に際しては、有造館に種痘館を設置、疑心暗鬼の民衆の不安を除くため、満一歳になった自分の孫娘に率先して種痘を受けさせるなど、その普及に努め、津藩内では殆ど疱瘡にかかる者がなかったという。

まさに、拙堂は津市の生んだ偉大な経世家であった。

(注)『三倉私議』とは、三種類の備蓄制度で、「常平倉」は、米価の安い時に買い、高騰時に放出して米価の安定をはかる。ただし全国規模で行わないと効果は薄い。「社倉」は年貢にプラスして米を供出させ備蓄するもの。ただし、年貢をさらに増やすのは事実上無理で武士や富商が倅約した金で米を買って備蓄させることを勧め、「義倉」は金持ちが金を出して備蓄米を買う制度である。備蓄には稗を勧めている。

(注記は編集者、出典は齋藤拙堂物語)

藩校有造館

建学の流れ

拙堂会常務理事 中川 禎二



筆者 近影

一、有造館の創立

藤堂藩第十代藩主藤堂高兌(たかさわ)公は、就任時の財政を検して驚いた。藩債(借金)は八十六万両、この利息は年七万余両に及び、藩の年間赤字は二万両を上まわっていた。高兌公は財政再建のため先ず自己の生活費を率先して節約し、藩士に儉約の範を示し、衰退した士風の振興と儉約質実の気風

を奨励したが、多年にわたる陋習は急に治すことは出来なかった。そこで旧悪を排除し、文武の本道に立ち戻るには、教育によって根本的に改革をするしか道はないと、藩校の設立を決断された。建築費は約一千八百十七両で、そのうち一千百四十四両が、高兌公が十年余、自分の日常経費の節約から得たものであった。

第十代高兌公はこのように自ら儉約の範を示し、士風を振作し、人づくりのため有造館を創設し、経世済民の政策で藩の興隆を図られ、その実績はまことに大きく、藤堂藩中興の祖と仰がれる名君であった。

二、藩校の運営と基本財産

高兌公は学校の経費を、初めは藩の予算で計上し、加えて千石以上の藩士に家禄の二厘(利率の単位・一厘は一割の一〇〇分の一)を賦課し、それによって経営資金と考えた。しかしこの方策では永続しないと思ひ、藩有林の払下げ金四千両を含む八千両を基金と

して乙部・産品・一身田等の土地を学田とし、この収入二千六百石を以て学校維持費に充当、藩勘定から分離し、特別会計として経理された。

学校の歳出は文政三年の二百八十両からはじまり、臨時支出を除き年額四百両から五百両内外であった。

三、有造館建学の流れ

藩校の活動期間は文政三年三月四日の開講から明治四年十一月十五日廃校に至るまでの五十二年間であった。

その間、督学の交替が六回あり、藩校衰退の時期も三期見られた。しかし、その流れの中で、有造館の建学を決断された藤堂藩中興の祖、第十代藩主藤堂高兌公と、諸説はあるものの一時期、水戸講道館・山口明倫館と並んで天下の三大藩校と称されるまでに有造館を発展させた第三代督学齋藤拙堂は、郷土津市にとつて誇るべき偉人である。藩校有造館の名残りは、津城址にある入徳門のみであるが、暫しここに佇み、往時を偲ぶよすがとしたい。

平成二十九年年度上期 拙堂会活動報告

齋藤拙堂の遺跡めぐり (六月四日)

拙堂生誕二百二十年記念パネルディスカッション

津市センターパレス内中央公民館ホール (九月十八日)

拙堂に関係する催事

○津市吟剣詩舞道連盟創設二十周年記念・構成物語

「齋藤拙堂の心を詠う」 津リージョンプラザ (八月二十日)

○茶磨山荘跡説明板 理事会による見学 (九月三日)

津市鳥町しあわせの森公園

齋藤拙堂の遺跡巡り

平成二十九年六月四日、梅雨の晴れ間の緑萌える好天に恵まれて、午前九時前には八十名ほどの方々が津駅西口に集まれ、安濃津ガイド会の先導で先ず津偕楽公園内の「拙堂齋藤先生碑」を見学。津市教育委員会・米山課長の

説明に続き、本会会長の齋藤正和先生からも御先祖の事績についてお話があり、次いで四天王寺に移動、ここでは織田氏と富田氏の戦いの跡である山門の弾痕などを拝見、引き続き同所にある拙堂先生とご尊父・ご子息の墓所に参詣。隣接する化学者・写真家の堀江鉄次郎の墓にも合掌しつつ、比佐豆知

神社に向かい、同社務所で湯茶の接待を受け、お土産をいただいた後、昨年八月に建立された拙堂先生山荘遺址を拝見、その後、最終地点である津城跡を訪ね、入徳門に有造館の昔を偲び、本丸を経由し、東鉄門跡で安濃津ガイドの方々の熱意ある解説に感謝しつつ、解散しました。



齋藤会長の説明

齋藤拙堂の遺跡めぐり

齋藤拙堂顕彰会の主催で、安濃津ガイド会のご案内により拙堂の遺跡を巡ります。暑くても参加下さい。

日時 平成29年 6月4日(日) 津駅西口9時受付
雨天の場合は6月11日(日)に順延

コース 津駅西口→偕楽公園→四天王寺→比佐豆知神社→津城跡

歩行距離 約4km

所要時間 約2時間(ガイド時間を含み)

参加費用 無料

ガイドタイムスケジュール

9:00から受付開始

津駅西口出発 9:30 <10分>
偕楽公園「拙堂先生の手紙」(10分) <20分>
四天王寺「山門・拙堂先生の墓・その他著名人の墓等」(20分) <15分>
比佐豆知神社「山荘跡」(15分) <20分>
津城跡「有造館入徳門・本丸」(20分)→東鉄門跡

11:30～12:00 解散

※①「山荘跡」は「山荘」ではなく「山門」の跡で、山荘は現在地から約1km離れた場所にあります。②「山荘跡」は現在地から約1km離れた場所にあります。③「山荘跡」は現在地から約1km離れた場所にあります。④「山荘跡」は現在地から約1km離れた場所にあります。⑤「山荘跡」は現在地から約1km離れた場所にあります。⑥「山荘跡」は現在地から約1km離れた場所にあります。⑦「山荘跡」は現在地から約1km離れた場所にあります。⑧「山荘跡」は現在地から約1km離れた場所にあります。⑨「山荘跡」は現在地から約1km離れた場所にあります。⑩「山荘跡」は現在地から約1km離れた場所にあります。⑪「山荘跡」は現在地から約1km離れた場所にあります。⑫「山荘跡」は現在地から約1km離れた場所にあります。⑬「山荘跡」は現在地から約1km離れた場所にあります。⑭「山荘跡」は現在地から約1km離れた場所にあります。⑮「山荘跡」は現在地から約1km離れた場所にあります。⑯「山荘跡」は現在地から約1km離れた場所にあります。⑰「山荘跡」は現在地から約1km離れた場所にあります。⑱「山荘跡」は現在地から約1km離れた場所にあります。⑲「山荘跡」は現在地から約1km離れた場所にあります。⑳「山荘跡」は現在地から約1km離れた場所にあります。㉑「山荘跡」は現在地から約1km離れた場所にあります。㉒「山荘跡」は現在地から約1km離れた場所にあります。㉓「山荘跡」は現在地から約1km離れた場所にあります。㉔「山荘跡」は現在地から約1km離れた場所にあります。㉕「山荘跡」は現在地から約1km離れた場所にあります。㉖「山荘跡」は現在地から約1km離れた場所にあります。㉗「山荘跡」は現在地から約1km離れた場所にあります。㉘「山荘跡」は現在地から約1km離れた場所にあります。㉙「山荘跡」は現在地から約1km離れた場所にあります。㉚「山荘跡」は現在地から約1km離れた場所にあります。㉛「山荘跡」は現在地から約1km離れた場所にあります。㉜「山荘跡」は現在地から約1km離れた場所にあります。㉝「山荘跡」は現在地から約1km離れた場所にあります。㉞「山荘跡」は現在地から約1km離れた場所にあります。㉟「山荘跡」は現在地から約1km離れた場所にあります。㊱「山荘跡」は現在地から約1km離れた場所にあります。㊲「山荘跡」は現在地から約1km離れた場所にあります。㊳「山荘跡」は現在地から約1km離れた場所にあります。㊴「山荘跡」は現在地から約1km離れた場所にあります。㊵「山荘跡」は現在地から約1km離れた場所にあります。㊶「山荘跡」は現在地から約1km離れた場所にあります。㊷「山荘跡」は現在地から約1km離れた場所にあります。㊸「山荘跡」は現在地から約1km離れた場所にあります。㊹「山荘跡」は現在地から約1km離れた場所にあります。㊺「山荘跡」は現在地から約1km離れた場所にあります。㊻「山荘跡」は現在地から約1km離れた場所にあります。㊼「山荘跡」は現在地から約1km離れた場所にあります。㊽「山荘跡」は現在地から約1km離れた場所にあります。㊾「山荘跡」は現在地から約1km離れた場所にあります。㊿「山荘跡」は現在地から約1km離れた場所にあります。

お問い合わせは、電話がけで「齋藤拙堂の遺跡めぐり」に申し込み記入の上、郵便番号・住所・氏名・年齢を記載し、下記「齋藤拙堂顕彰会事務局」までご連絡下さい。
締切は5月20日(土)です。

〒514-0007 津市大谷町208-175 電話二 五
「齋藤拙堂顕彰会事務局」 TEL:059-226-2722

今こそ『拙堂に学ぶ』

パネルディスカッション



平成二十九年九月十八日、津市センターパレス内の津市中央公民館二階ホールで午後一時半から、齋藤拙堂

フォーラムが、拙堂の生誕二百二十年と拙堂顕彰会の発足一周年を記念して、当会主催、津市及び津市教育委員会共催のもと、聴講者約百六十名の参加を得て盛況裡に開催されました。

齋藤会長は「津に拙堂という偉大な学者がいたことが、児童生徒にまで広がれば、文化振興にも学習意欲の向上にも繋がる」と挨拶され、パネリストで津市吟剣詩舞道連盟会長の加藤龍宗当会理事長は、拙堂がその生涯で作られた漢詩千二百の内、「禁門を過ぐ・芳野・花瓶の中の牡丹」の三篇を取り上げて文人としての魅力を説き、豊かな教養と巧みな表現に支えられた漢詩の美しさを讃え、ユーモラスな詩『花瓶の中の牡丹』を朗々と吟じられ「自然を愛し、人を愛した拙堂のことを学んでほしい」と訴えられました。

続いて三重歴史研究会会長の榎本千江氏は、拙堂は藩校の教育者としてだけではなく、経世家・歴史家・思想家であったこと、また当時の海外の事情

に通じ、清国の阿片戦争による衰退などを踏まえ、西洋の知識、兵術を取り入れ、文武両道の藩にすべく力を注いだことに言及されました。

最終のパネリストである津城復元の会会長で三重ふるさと新聞会長の西田久光氏は、拙堂の「経世家」として民の苦しみを救う「経世済民」の一面を掘り下げ、短期間ではあったが郡奉行に就任、悪い庄屋を罰し農民に喜ばれたことは、貧農を救済したいという、父君の願望がその原点にあると指摘、また小氷河期と言われる時期にあつて飢饉を予測、「救荒事宜」を著わして飢饉対策を献策、他藩には餓死者が出たが、津藩では一人の餓死者もなかったと言う功績を残し、また、攘夷の盛んな時代に、条件付きではあるが開国論を主張するなど、経世家として優れた識見を持ち、また医術面でも先んじて種痘館を設置するなど、顕著な実績を残されたことを語られ、午後三時半、盛況の裡に閉会しました。

拙堂に関する催事

平成二十九年年度上期

齋藤拙堂の心を詠う

平成二十九年年度の津市民文化祭・津市吟剣詩舞道連盟創設二十周年記念で構成物語『生誕二百二十年齋藤拙堂の心を詠う』が上演されました。

主催 津市・津市民文化祭実行委員会
主管 津市吟剣詩舞道連盟

平成二十九年八月二十日、津リージョンプラザお城ホールで「津市民吟剣詩舞のつどい」が開催され、会員による吟剣詩舞の後、構成物語として「齋藤拙堂の心を詠う」を上演、拙堂の漢詩十一篇が吟じられ、最後に七言律詩の合吟によつて藤貴流の流麗な舞踊が披露され、大喝采の裡に閉会しました。

生誕二百二十年記念

齋藤拙堂の心を詠う



企画・構成

(公社)日本吟道学院水心会

会長 加藤龍宗

スライド

真山流吟詠会

会長 種田真山

語り

(公社)日本吟道学院水心会

松田龍美

舞

藤貴流

藤貴静扇



齋藤拙堂山荘(茶磨山荘)跡

説明板の新設

鳥居町しあわせの森公園



茶磨山荘跡・説明板

大きさ=タテ 70cm ヨコ 100cm

当会は予て津市に対し、津公園内の「拙堂齋藤先生碑」の説明板の設置と「茶磨山荘跡」への説明板の新設を要請していました。津公園は碑が多く市としては対応できないという回答でしたが、加藤理事長の再三の申し入れで、茶磨山荘跡については、津市鳥居町のしあわせの森公園内に説明板を設置することにになり、本年八月末日、津市教育委員会によって設置が実現、九月三日に理事会が現地を見学しました。

平成二十九年度下期の

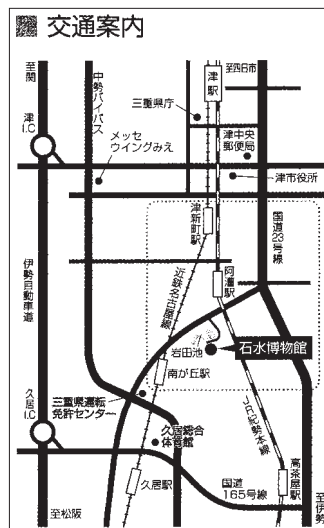
行事予定

生誕二百二十年記念齋藤拙堂展

石水博物館・主催

平成二十九年十二月一日(金)から三十一年二月四日(日)まで、津市垂水の公益財団法人石水博物館で「生誕二百二十年記念 齋藤拙堂展」が開催され、拙堂の遺墨や著書などの展示を通して拙堂が津藩に残した業績と幅広い交友関係が紹介されます。なお、同館において、十二月十日(日)と翌年一月十九日(金)十四時から、三十分程度、当会の齋藤会長によるギャラリートークが行われます。

同展の記念講演会が平成二十九年十二月十六日(土)十四時から十五時三十分まで、津市商工会議所一階の丸之内ホール(津市丸之内二九―一四)で行われます。講師は当会の齋藤会長です。参加申し込みは電話受付で石水博物館(059-227-5677)先着八十名様、聴講は無料です。



石水博物館への交通案内

齋藤拙堂顕彰会

『第一回小中学生書道展』

平成三十年三月九日(金)から三月十一日(日)まで、津市リージョンプラザ三階の生活文化情報センター(展示室)で、齋藤拙堂先生を顕彰する県下の小中学生書道展を開催します。

展示時間は午前九時三十分から午後四時三十分。最終日は午後二時三十分。応募要項

対象Ⅱ小学生・中学生の毛筆作品

作品の大きさⅡ八ツ切り・縦形式のみ

課題Ⅱ小一・つくし 小二・みどり

小三・せつどう 小四・入徳門

小五・有造館 小六・自然の美

中学生・津城懐古

書体Ⅱ小学生は楷書、中学生は楷書

または行書一人一点

名前の書き方Ⅱ小学一、二年はひらがな三年以上は漢字。

学年の書き方Ⅱ小一・小二・中一のように書く。行書作品は名前も行書

応募期間は平成二十九年十二月一日

(金)から平成三十年一月二十日(土)

優秀な作品には津市長賞・津市議会議長賞・津市教育長賞・齋藤拙堂顕彰

会会長賞が贈られ、その表彰は平成三

十年三月十一日(日)に行われます。

書道展担当は当会理事・書家の稲垣

武嗣先生です。電話 059-224-3670

拙堂顕彰・「俳句・短歌」の募集

十月一日発行の津市広報と、十月十一日付けで事務局から会員の皆様にお知らせしたように第二回・齋藤拙堂顕彰「俳句・短歌」を募集しました。

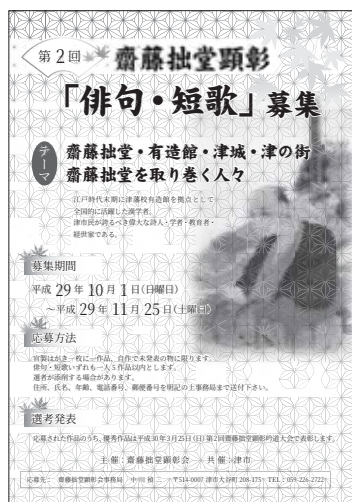
応募期限は、平成二十九年十一月二十五日(土)で、すでに期限が経過していますが、応募方法を再録しておきます。

応募方法

○官制はがき一枚に一作品。自作で未発表のものに限ります。



書道展のパンフレット



俳句・短歌のパンフレット

○俳句・短歌いずれも一人五作品以内とします。

○選者が添削する場合があります。

○住所・氏名・年齢・電話番号・郵便番号を明記。事務局あてに送付。

優秀作品は平成三十年三月二十五日(日)の第二回齋藤拙堂顕彰吟道大会で表彰し吟詠されます。

賞は津市長賞・津市議会議長賞・津市教育長賞・齋藤拙堂顕彰会会長賞の四賞です。選者は、俳句は山崎満世先生・短歌は中川佐和子先生で、それぞれ、津市発行「津市民文化」の俳句・短歌欄の選を担当しておられます。

齋藤拙堂顕彰吟道大会

平成三十年三月二十五日(日)、津市吟剣詩舞道連盟主催・津市共催・齋藤拙堂顕彰会後援の第二回齋藤拙堂顕彰吟道大会が開催されます。

なお、当日「齋藤拙堂顕彰・俳句・短歌」の表彰式を行い、優秀作品が吟じられます。

入場は無料。ご来場を歓迎します

日時 平成三十年三月二十五日(日)
午後一時三十分から四時三十分

場所 津市大門七―十五

津市センターパレス二階

中央公民館ホール

参加要領

各会一〇題まで。吟題は齋藤拙堂または拙堂にゆかりのある方の作品。時間の関係で絶句・短歌・和歌・俳句に限りません。

参加費は一題五百円。申込締切りは平成二十九年十二月廿日

申込先 059-226-2465 米田豊山

拙堂今昔・(湯島)

物の本によれば、湯島聖堂は中央線御茶ノ水駅から徒歩三分の所とあり、神田和泉町の、藤堂藩由緒書きの立つ場所は秋葉原の駅から十分余りの所である。JRで一駅。これに歩く時間を多めに加えても、そう時間はかからないと思ひ、神田和泉町を起点に湯島聖堂を目指したが、方角の見当がつかない。結局タクシーのご厄介になつて聖堂に到着。

そんなことで、転がりやすいので団子坂と呼ばれていたと言う昌平坂がどこであったかもわからず、徳蔵少年の通学路の確認はできなかった。

聖堂、すなわち昌平坂学問所は度々火災に合い、現在の主な建物は斯文会によつて昭和十年に再建、その後昭和と平成に改修されているが、流石に重厚な風格で、曾てのわが国の最高学府

としての威容を誇っている。その厳粛な大成殿の前庭で、保母さんが二歳前後の保育園児を遊ばせていたので、ほんわかとした雰囲気が嬉しく、思わず下手なシャッターを切った次第。



聖堂・前庭の保育園児

そこで思い出したのが徳蔵少年のことである。二歳の時に生母を失い、父君に育てられたのだが、幼い頃上野の不忍の池で遊び、手を叩いて鯉を集めた思い出があり、後年、中国の書物の中に池の鯉を音で集める記事を発見、感慨一入のものがあつたという。

上記は「拙堂文話」中の逸話であるが、柳原から上野へはかなり距離があるように思う。拙堂は幼い頃から健脚家であつたのか。なお、左は聖堂の説明板の文言である。簡にして明。

説明

寛永九年(一六三二)、尾張藩主徳川義直、林道春(羅山)をして、上野忍ヶ丘に先聖堂を造営せしめしに始まる。その回祿(火災)の災に罹るや、元禄三年(一六九〇)、將軍綱吉之を今の地に移して、大成殿と稱せり。後、寛政十一年(一七九九)大成殿及び杏壇・入徳・仰高諸門を再建し、明治維新の際、大学を此地に置くに及び、一旦孔子以下の諸像を撤去せしも、後、舊に復せり。

建造物は暫らく東京博物館の一部に充てたりしが、大正二年(一九一三)九月一日、関東大震災の為、入徳門・水屋等を除くの外、悉く焼亡せしを昭和十年(一九三五)四月四日鐵筋混凝立構造に依りて原型に復せり。昭和十一年三月

文部省

(文責・塚澤 正)